

令和5年度 小平市立小平第六中学校 学校評価報告書								
学校教育目標 ○敬愛 ○勤勉 ○創造								
目指す学校像(ビジョン)								
【目指す学校像】 ●(生徒)主体的に活動し、将来に向けて挑戦できる魅力ある学校 ●(保護者)安心と信頼があり子供を通わせたい学校 ●(地域)地域や保護者、学校が協働した、地域とともに歩む学校 【目指す児童・生徒像】 ●生きる力をもつ生徒 ○思いやりのある生徒(敬愛) ○自分の責任を果たすことのできる生徒、進んで学習に取り組む生徒(勤勉)○自己の個性を伸ばし、豊かに表現できる生徒(創造) 【目指す教員像】 ●生徒を心から慈しみ理解する ●日々研鑽に努めるとともに協働して磨き合う ●地域を愛し保護者や地域の信頼に応える ●職責の重さを自覚し、コンプライアンスに基づき職務を行う								
前年度までの学校経営上の成果と課題								
【成果】●落ち着いた生活状況により、より良い学習への取り組み状況が見られる。●生徒の自己肯定感の増進による各種活動の活発化ならびに他者理解の促進(研究成果) 【課題】●六中スタンダード(より良い授業作りの基本方針)による学習指導力の向上 ●保護者への教育活動へのさらなる理解推進(広報活動の充実)●不登校生徒への働きかけ								
	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	・統一した授業形態(指導方法:六中スタンダード)を実践し、生徒が授業の流れを予測し、自らの学びを実感するわかりやすい授業を展開する。 ・タブレット端末を授業で利用する。	1	4	【成果と課題】ICT機器の利用回数が20回以上の教員は70%を超えた。しかし、研究授業の実施や参加回数が少なく、取組目標が1となった。中々時間がない中ではあるが、研究授業への参加意欲の高揚が課題である。 【対策】研究授業や研究会の案内配信と声かけを行う。	2	4	○多忙な職務の中、先生方は様々に工夫し頑張ってくださっている。 ○先生方が研修や研究授業へ参加しやすい環境を作り、そこで得た力や学びを生かせる学校としていきたい。	【成果と課題】成果指標では、ほとんどの教科が「よくあてはまる」と「まああてはまる」合わせると90%を超えていた。中には「よくあてはまる」だけで80%を超えていた教員もいる。取組指標では、研究授業の実施や研究会への参加回数が少なかった。多忙な勤務内容の中でも、来年度の重点的な取組である授業改善の意識を高め、意図的に時間をつくる必要がある。
	・こだろくノートによるタイムマネジメントを行い、生活習慣作りを推進する。 ・学習支援教室(放課後ジョイナス、土曜ジョイナス 他)を実施し、個に応じた補充学習の機会を増やす。	2	3	【成果と課題】全国学力学習状況調査(対象3年生)では、家で自分で計画を立てて勉強している生徒が、全国と東京都の平均を上回った。しかし、東京都の学力調査(対象1年～3年)では、東京都の平均を下回った。1・2年生の家庭学習の習慣化と反復ドリル学習の必要性が課題であった。	2	3		【成果と課題】第2回の成果指標では第1回に比べ4.4%向上してはいたが、それほどの変化ではなかった。注目すべきことは「できていない」が、前回の23%から16.5%と減少してきていることである。今後も自分を振り返り進路を意識させることと、授業と家庭学習の一体化を図ることで、家庭学習の習慣化を促していきたい。
健全育成(いじめ防止)	・6中SDGsなどの生徒会・委員会活動の促進。読書活動の推奨。 ・あいさつや礼儀、マナー指導を推進。 ・問題行動に対して連絡白板を活用する等、教員間の情報共有の徹底。	4	4	【成果と課題】生徒会や教員、民生委員よる朝の挨拶運動を実施した。読書活動の必要性を国語科に伝えた、図書館利用回数が増えた。問題行動に対しては、関係諸機関と連携して早期の対応ができた。6中SDGsの推進が課題である。 【対策】生徒会の主体的な取組を行う機会をつくる。	3	4	○六中はあいさつが飛び交う学校で気持ちが良い。指導とともにお手本となる先生方によるものだと思う。 ○コロナ禍でとだえたり、減少したりしていた地域との関わりだが、生徒が地域で活動する機会を増やし、地域の方との関わりを通して健全育成の場としていきたい。	【成果と課題】規則正しい生活に関して前回の成果評価から4.1%向上し、第1回「できていない」が9%「あまりできていない」が25%であったが、第2回は「できていない」が7.4%「あまりできていない」が22.5%となった。微増ではあるが向上している。 【対策】あいさつ運動と主体的な活動を意識して継続させる。
	・いじめ調査を定期的に実施し、実態把握と組織的な取組を行う。 ・生徒会が主催し、生徒が主体となるいじめ防止への取組を実施する。 ・道徳教育により道徳的心情を育む。	3	4	【成果と課題】いじめ調査を定期的に行い、発生事例に組織的に取り組んだ。道徳科の授業において、思いやりに関連したいじめ防止の学習を教員の80%が5回以上行った。 【対策】生徒会サミットにむけて、6中SDGsの一環として、生徒会の自主的な問題防止の取組を行わせる。	3	4		【成果と課題】第1回目と第2回目では成果目標は変わらないが、「あまりできていない」6%から10%「できていない」3%から7.4%となった。もっと生徒や保護者に寄り添う指導を展開すべきである。 【対策】3者面談を工夫するなど、生徒の学校での様子が具体的に保護者に伝わるようにする。日常的な連絡を密に行う。
学校経営	・コミュニティ・スクール推進委員会を適宜、実施する。参加者は学校経営協議会委員、管理職、分掌主任(教務、生活指導、進路学習)、学年主任で、情報・意見交換を行う。	3	3	【成果と課題】コミュニティスクール活動として放課後学習教室等を行い、生徒の居場所づくりと学力向上に寄与した。計画的にCS推進委員会や6中学区連絡協議会を開催した。 【対策】不登校支援として、地域施設(小平福祉園)や地域の方々と連携して新たな取り組みを行っていく。	3	4	○コミュニティスクールとして、地域との連携を大切にしてくれている。 ○HPが日々配信されており、六中の様子がよく伝わってきた。	【成果と課題】前回の成果指標69%から今回の成果指標77.1%へと向上した。コミュニティ・スクール推進委員会の活動の認知が広がってきたといえる。また小平福祉園で行われている子ども食堂が東京都教育委員から表彰された。 【次年度へ】小平福祉園との連携を進め不登校支援を推進する。
	・日々の教育活動をHPや学校メール、学校・学年・クラスだよりにより発信する。(近隣、小学校へ掲示など) ・六中学区連絡協議会を編成。 ・学校公開の実施。	3	4	【成果と課題】HPの更新が月平均48回となった。ほぼ毎日更新できた。合唱コンクール560名の参加。アンケート結果とても満足と満足合わせて80%を超えたが、伴奏者欠席対応や動画配信、会場の保護者マナー等の意見をいただいた。 【対策】学校公開を進め教育活動の理解と改善を促進する。	4	4	○不登校への理解と支援を地域に広げていけたら良い。	【成果と課題】前回の成果指標が87%であり、今回の成果指標が86.5%であった。変わらず高い値である。今後も継続していく。 【次年度へ】授業と家庭学習の一体化や協働的学びへの授業改善など、家庭の理解とともに推進していくことが大切となる。理解を促す工夫を行う。
キャリア教育	自己の将来を描くことのできるよう、生きる力を高める取組を実施する。(生き方講演会、職場体験、職業調べ、上級学校訪問、道徳、体験授業など)	4	2	【成果と課題】2学年は、職業体験やハローワークと連携した進路学習。3年生は、進路面談。1年生は福祉体験活動等を2学期に入り計画し実施中である。 【対策】まだ実施していないCSによるキャリア教育プロジェクトを行えるようにする。	4	4	○学年ごとにキャリア教育のプログラムが実施され、3年間の積み重ねがされている。 ○コロナ禍で滞っていた地域での活動が少しずつでき、良かった。今後も無理なく続けていく。	【成果と課題】前回の成果指標59%から今回の成果指標が71.7%へと大幅に向上した。三者面談や職業体験学習の実施などによる成果であると考える。第一学年は三学期に進路学習を行う。 【次年度へ】キャリアパスポートの計画的効果的な利用を推進し、自分と向き合い、将来を考える機会をもたせる工夫を行う。
	ボランティア活動や地域行事への参加を促進する。(地域清掃活動、青少対の活動の体験など)	2	3	【成果と課題】地域活動部や箏曲部が小平福祉園のフェスタに参加した。11小学校の運動会に運営側として体育委員を中心とした3年生が中学校の代表としてボランティア参加。 【対策】CSと連携しながら、ボランティア活動の活性化を図っていく。	3	4	○今の生徒達に一番必要なキャリア教育は、コミュニケーション力だと思うので、培っていくように取り組んでほしい。	【成果と課題】前回の成果指標69%から今回の成果指標77.1%へと向上した。小学校へのあいさつ運動、運動会へのボランティア参加を行うことができた。地域活動部が青少対の活動に参加した。 【次年度へ】今後もCSと連携しながら、ボランティア活動の活性化を図っていく。
防災教育	・避難訓練の適切な実施。 ・災害に対する意識を高めるため、防災教育を道徳、総合的な学習の時間を活用し適宜実施する。	1	4	【成果と課題】避難訓練を毎月確実に行えている。インフルエンザが流行り、全校生徒が集まらない時は、昼休みのその場で避難態勢をとらせる訓練を行った。 【対策】回数が取組目標となっているので、今回は1となっているが、確実に行っていくことで次回の評価は高くなる。	3	4	○感染症などにも考慮しながら、定期的に避難訓練を実施していたことは大変心強く感じる。 ○今後も気持ちよく働ける学校であってほしい。	【成果と課題】前回の成果指標80%から今回の成果指標82.2%へと向上した。今回「できていない」が0%となり、保護者への理解が進んだと言える。三学期にはCSの協力により日本赤十字社による地域防災教育活動を行う予定である。 【次年度へ】今後もCSと連携しながら、地域防災の活動を行う。
働き方改革	・長時間勤務者への面接指導実施。 ・育児休業を取得しやすい雰囲気と体制づくりを行う。 ・自分事として捉える服務防止研修の実施し、チェックシートで確認する。	3	4	【成果と課題】週あたりの在校時間が80時間を超える職員に声かけを行った。多くの職員は80時間以内である。男性職員2名が育児休業をとった。 【対策】休暇が取りやすい雰囲気、休暇を取った場合の体制を全職員で支えていく雰囲気を促進する。	3	4	○3学期末にCS企画で行う日赤の講演及び学習の場に、生徒・保護者・地域の方々とともに感じた思いを伝え合うことが大切なことであり、必要だと思う。	【成果と課題】第三学年の進路に向けた事務作業で、80時間を超える職員がいたが、声掛けにより意識化することで減ってきた。 【次年度へ】今後も業務軽減を考えた仕事の割り振りと休暇が取りやすい体制づくりを行っていく。